

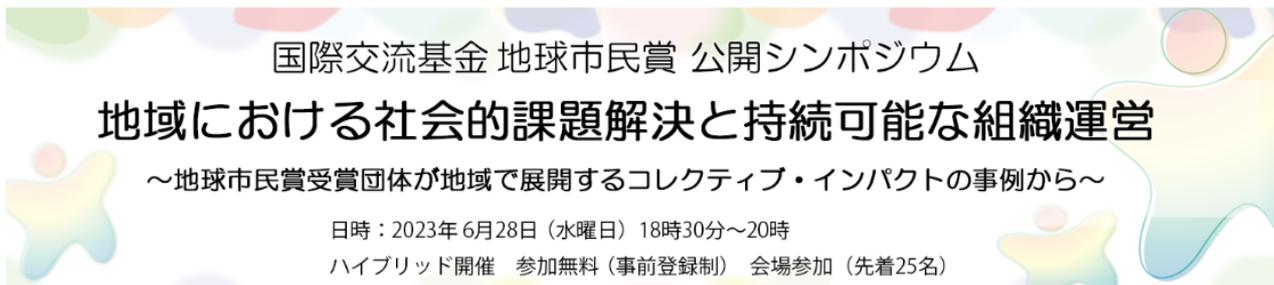
## コレクティブ・インパクトで実現する地方創生と地域活性化を議論 ～6月28日 公開シンポジウム「地域における社会的課題解決と持続可能な組織運営」開催～

国際交流基金（JF）は、公開シンポジウム「地域における社会的課題解決と持続可能な組織運営～地球市民賞受賞団体が地域で展開するコレクティブ・インパクトの事例から～」を開催します。

近年、社会的課題が複雑化し、団体や自治体が単独で課題を解決することがますます困難になってきています。取り組むべき活動が多様化する一方、持続可能な組織運営や活動の情報発信など、多くの活動団体が共通の課題を抱えています。

本シンポジウムでは、地球市民賞のこれまでの受賞団体の事例を取り上げ、事業や組織運営の課題と対応策、グッド・プラクティスを共有します。複雑な社会的課題に向き合い、組織を安定的に運営する手立てを考えるとともに、地域の課題解決の担い手である国際文化交流団体の今後の活動のあり方についても検討します。

当日は、社会課題の解決に単独の組織で取り組むのではなく、地方自治体や企業、行政、NPO などが手を取り合って協働する「コレクティブ・インパクト」で実現する地方創生と地域活性化について議論する予定です。実際にさまざまなプレイヤーと共に活動している登壇者が事例を発表します。イベント後半には、市民賞受賞団体限定のグループワーク（ディスカッション）も開催します。



### 記

事業名称：地域における社会的課題解決と持続可能な組織運営

～地球市民賞受賞団体が地域で展開するコレクティブ・インパクトの事例から～

主催： 国際交流基金（JF）

開催日程：2023年6月28日（水）

18時30分～20時 一般公開

20時10分～21時 市民賞受賞団体限定グループワーク

会場：独立行政法人 国際交流基金（JF）

東京都新宿区四谷 1-6-4 四谷クルーセ 1階 ※同時オンライン配信あり

プログラム：

【一般公開シンポジウム】

主催者挨拶

事例発表 地球市民賞受賞団体が地域で展開するコレクティブ・インパクトの実践

質疑応答

【市民賞受賞団体限定グループワーク】

グループディスカッション

発表・質疑応答

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## 登壇者プロフィール

**モデレーター** 田村 太郎 一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 2022 年度地球市民賞選考委員



### 略歴

阪神・淡路大震災直後に外国人被災者への支援を機に「多文化共生センター」を設立。地域における多文化共生の推進に従事。東日本大震災直後に内閣官房企画官に就任し、現在も復興庁・復興推進参与として東北復興にも携わる。総務省など国や地方自治体の多文化共生関連委員を歴任。共著に『多文化共生キーワード事典』『自治体施策とユニバーサルデザイン』などがある。

**コメンテーター** 若林 朋子 プロジェクト・コーディネーター

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教員 2022 年度地球市民賞選考委員



### 略歴

1999～2013 年、企業メセナ協議会で PO（プログラム・オフィサー）として企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事。現在はフリーで事業コーディネート、企画開発、調査研究、コンサル、NPO 支援などに取り組む。

photo : 安田有里 ©Ko Na design

**スピーカー** 岩永 清邦 認定 NPO 法人 地球市民の会（佐賀県）事務局長 （1989 年度地球市民賞受賞）



### 略歴

青年海外協力隊員として中国に 2 年間滞在後、現職。地球市民の会では、主に国内事業を担当し、SDG s 推進、子どもの居場所づくりを担い、行政や地域の方々と協働で活動に取り組む。他にも、合同会社葉隠代表社員、公益財団法人佐賀未来創造基金副理事長、一般社団法人佐賀災害支援プラットフォームの共同代表を兼任。



### 団体概要

人の幸せを自分の幸せと感じられる、そんな人があふれる社会づくりを目指し、地域づくりに取り組む。活動は、タイ、スリランカ、ミャンマーでの教育や農業、環境保全など、また日本国内での子どもの居場所、SDG s 推進、災害支援。

## この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

**スピーカー** 住岡 健太 特定非営利活動法人 Peace Culture Village(広島県) 専務理事  
(2022 年度地球市民賞受賞)



#### 略歴

広島出身の被爆三世。「平和をつくる仕事をつくる」をミッションに掲げる NPO 法人 PCV へ参画。「平和×〇〇」を軸に持続可能なアクション・ソーシャルビジネスを考える機会を提供している。2022 年度には 70 カ国 1 万 7 千名へプログラムを提供し、国際交流基金地球市民賞を受賞。2022 年株式会社 PLAY SPACE 代表取締役に就任。



#### 団体概要

世界から広島を訪れる人々への平和ガイドや対話プログラムを提供。XR といったテクノロジーの活用や、若い世代が有償で仕事として参画する仕組みを構築するなど国際交流活動のあり方にも新たな可能性を示している。

**スピーカー** 山野 真悟 特定非営利活動法人 黄金町エリアマネジメントセンター (神奈川県) 事務局長  
(2017 年度地球市民賞受賞)



#### 略歴

1978 年から IAF 芸術研究室を主宰。1991 年ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長に就任。「まちとアート」をテーマに様々な美術展のプロデュースを手掛ける。2008 年に拠点を横浜に移し、翌年黄金町エリアマネジメントセンター事務局長に就任。著書に『アートとコミュニティ』（共著者：鈴木伸治、2021 年 春風社）がある。



#### 団体概要

横浜市初黄・日ノ出町地区を主な活動エリアとし、地域・行政・警察・大学・アーティストなどと連携しながら、アートを通じて創造的で特色ある「界限」の形成を進めている。

#### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

**国際交流基金 地球市民賞について** (<https://www.jpjf.go.jp/j/about/citizen/index.html>)

1985年、全国各地で国際文化交流活動を通じて、日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える団体を支援する賞として創設。これまでに118の団体等が受賞しています。

国際交流基金（JF）では、現在、2023年度「国際交流基金 地球市民賞」の受賞候補団体の応募を受け付けています。本賞は、公益性の高い国際文化交流活動を行っている日本国内の団体を対象とし、地域に根差した活動を通じて日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデアを交換し、ともに考える団体を応援するものです。自薦・他薦を問わずご応募いただけます。受賞団体は、有識者らによる審査を経て決まり、2024年1月中旬にJF公式ウェブサイトで発表します。

今年度の応募締め切りは、2023年7月28日（※郵送の場合は当日消印有効）です。

以上

---

**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpjf.go.jp](mailto:press@jpjf.go.jp)